

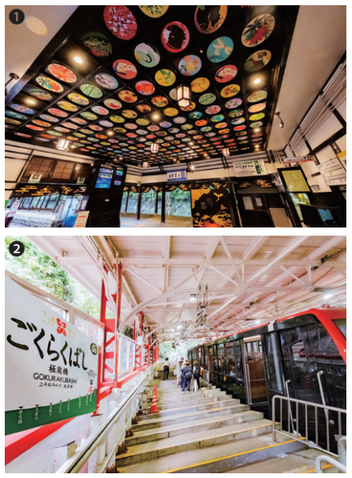
空海が開いた天空の聖地

千年の祈り、今もなお人々の心を導く

和歌山県の北東部、千メートル級の峰々に囲まれた天空の宗教都市、高野山。弘法大師空海が１２００年以上前に開いた真言密教の修行道場である。空海は高野山を開くにあたり、壇上伽藍の整備から始めたという。壇上には根本大塔をはじめとする堂塔が配置され、曼荼羅の世界を立体的に表現した。そして、高野山におけるもう一つの聖域が、空海が今も瞑想を続けているとされる奥之院だ。樹齢数百年の大杉と、20万基以上ともいわれる供養塔や墓石が連なる空間に癒される。しかし近代に至るまで高野山は、参詣道である町石道を歩いて登る以外に容易には訪れることのできない場所だった。

深紅を基調とした車体に、車両ごとに異なる趣をまとった4両編成の列車が、高野山を目指してなんば駅を発車する。癒やしに満ちた旅へと誘う観光列車〝ＧＲＡＮ　天空〟だ。４号車入口付近の仕切りには九度山の真田紐、テーブルや椅子には紀州材を用いるなど、車内の随所に和歌山の魅力が息づく。

和泉山脈を越え、橋本駅を過ぎると、急勾配と急カーブが連続する山岳区間に入る。山間の集落や美しい渓谷を眺めながら進むと、列車は極楽橋駅に到着する。駅舎の天井には、高野山ゆかりの動植物や極楽鳥、宝来などを描いた天井画が来訪者を迎え入れる。ここからケーブルカーに乗り、ようやく辿り着く先が、天空の聖地、高野山だ。



❶極楽橋駅の天井絵。曼荼羅を彷彿させるような色とデザインに引き込まれる。❷最急勾配約29.4度、高低差約328mを5分で結ぶケーブルカー。

和歌山を感じながら聖地へと誘う、癒しの列車旅









❶GRAN　天空4号車は事前予約が必要（2名～）。上質なソファーで寛ぎながら、変わりゆく景色を楽しむ極上のひとときに癒される。❷外観は深紅色をベースにゴールドの絵柄をあしらった装飾が施されている。アテンダントスタッフの制服はコシノジュンコ氏によるデザイン。❸ワイドビューシートの2号車。テーブルや座席は紀州材を使ったオリジナル。❹4号車で提供される創作料理。地元食材がふんだんに使われ、季節ごとにメニューが異なる。

南海電鉄コールセンター
電話／050-3090-2608
GRAN　天空／なんば駅～極楽橋駅
ケーブルカー／極楽橋駅～高野山駅
https://www.nankai.co.jp/traffic/kankoutrain/grantenku/







❶樹齢数百年を超える大杉が立ち並ぶ奥之院参道。そこは敵も味方などない平和な世界が広がっている。❷参道のあちこちで見かける小さなお地蔵様。お大師様の近くにいたいという、人々の信仰心の表れだ。❸壇上伽藍に建つ根本大塔。塔内中央には大日如来像が安置され、内部もまた曼荼羅の世界を表現している。❹高野山の信仰や行事など全ての中枢である総本山金剛峯寺。

高野山真言宗
総本山金剛峯寺
住所／和歌山県伊都郡高野町高野山132
電話／0736-56-2011